



1.住宅街の中にある『テーラーカワバタ』。大きな看板は特に掲げていない。2.仮縫いしたスーツは試着をして調整を繰り返しながら仕上げていく。最低でも2回は試着に来店してもらうのだという。3.仕事道具の中には父から受け継いだものも数多く、現役で使われている。4.生地はイタリア・エルメジルドゼニア社の上質な素材を使う。ワイシャツのオーダーも人気だ。5.縫製は妻を含め3人のベテラン縫製師が一人、専任で行う。手前は30年選手の角田さん。6.河端と同じ年に入社した春藤さんは良き相棒だ。断裁から縫製まで何でもこなす。7.ミシンは今も足踏みである。電動では微妙な調整が出来ないことがあり、足踏みが便利なのだという。

## テーラーカワバタ

札幌市東区北16条東7丁目2-40  
TEL.011-711-9413  
営業時間/9:00~19:00 無休  
http://www.t-kawabata.com

第十六回  
**匠を訪ねて**  
ひとつのモノに深い愛とこだわりを持ち、  
とことん己の人生を捧げる匠の人。  
私たちの身近な場所にいる、そんな一途な男達の物語。



テーラー  
かわばた まさあき  
**河端正明**  
昭和23年、三笠市生まれ。ハンドメイド  
オーダー専門店『テーラーカワバタ』店  
主。父親が昭和33年に創業した同店  
に21歳で入社。店主となった現在も経  
営を担いながら接客からカット、フイ  
ッターなど実作業も手がけ、シャツやジ  
ヤケット、コートなどオリジナル商品の  
開発にも積極的に取り組んでいる。

っ走り。友達と遊んでいる最中でも容赦なく頼まれた。いつかは店を継ごうと思っていた訳ではない。父親も継いでくれと口には出さなかった。でも、いつかは息子がそうしてくれると期待していることは、感じていた。高校を卒業後、船乗りに憧れていた河端は海上自衛隊に入隊。初めて経験する別世界は楽しく刺激的で、航空自衛隊も経験した。

一年半が経ち、正月休暇で実家に帰った時、父と連れ立って風呂屋へ行った。昔気質の強がりからか言葉には出さないが、「いつ帰ってくる」と言いたげな父の表情を湯気の中に見て、河端は戻って店を継ぐことを決めた。

仕事を父親から細かく教わったことはない。仕事は見えて覚えろ、目で盗め、というのが職人肌の父の信条であった。父親をはじめ、他の職人達の手仕事を見て、必死で覚える他はなかったのだ。受け持った客の採寸をして、製図の基本に忠実に型紙を起こすと、それを見て「あの人の体型だと、これでは後からこんな不具合が出るぞ」と父に指摘される。それは大抵その通りの結果となり、驚かされる。部分を見るのではなく、全体で見る。それも父から学んだことだ。

※

テーラー業で最も難しいのは、いかにお客様のイメージを形にするかということだと河端は言う。どんなシーンで着るのか、どういう人とかわかるのか、どう見

かつては町のあちこちにあった紳士服専門の仕立屋、テーラー。服は仕立てるもの、というスタイルは戦後のアパレル産業の発展と共に変化を遂げ、既製品を買うという消費型へと変わっていった。紳士服業界には海外の工場で大産生産する大型量販店が台頭し、昔のように完全ハンドメイドオーダーのテーラーは、札幌に10軒も残っていない。

東区の住宅街にある『テーラーカワバタ』は昭和33年創業。確かな技術を持つ職人が全て手仕事でスーツを仕立て、ワイシャツやコートなども作っている。昔からの顧客はもちろん、紹介を受けたり噂を聞いて訪れる客も絶えない。

店主は河端正明、62歳。腕のいい仕立て職人であった父の河端重雄が創業したこの店の2代目として、40年以上に渡り渡りテーラー業を続けてきた。

「父は兵役につく前は満州でテーラーを構えていた職人でした。終戦後は2年間シベリアに抑留され、その間も仕立て職人としてソビエト軍に重宝されたそうです。復員後は三笠の被服工場や札幌の大きなテーラーに勤め、私が10歳の時に『河端洋服店』を開きました。看板も出さず宣伝もせず、それでもお客様は次々にいらっしゃいました。職人としての腕前が確かだったからでしょうね」

※

少年時代、仕事の手伝いは当たり前。針の糸通し、アイロン掛け、刺繍店への使い

「シルエットは格好良くても、電車ですり革を掴んだ時に肩がきつかったり、動きにくかったりというのでは問題です。体型や動きの癖も計算しながら、いかにお客様の理想に近くて着心地のいいスーツを作るか。それが腕の見せ所です」

店の業務の3割は、以前仕立てたスーツの補正や補修である。体型が変わったから直してほしいという依頼も多い。

「それだけうちで仕立てたスーツを大事にし、長く着てくれていくということですから、ありがたいと感じます。中には25年近く着続けてくださり、袖裏がボロボロになったので直して下さいと持ち込まれる方もいらっしゃいました」

そんな時は依頼された箇所の補修だけではなく全てを点検して、他のほころびも直す。もちろん客には言わず、追加で代金を貰うこともない。

「オーダーメイドの価値とは、その人のための最適な服を仕立てるだけではなく、買った後の補正や補修などのアフターケアに細かく対応できることにあります。うちで仕立てたスーツを着ていらっしゃる方がいる限り、体が続く限り、店を続けて行かねばならないと考えています。使い捨てのスーツではありませんので、やりかけた責任があるんです」